

令和7年度 神奈川県立平塚看護大学校
総合型選抜入学試験 筆記試験 問題用紙

注意事項

- * 指示があるまでは中を見てはいけません。
- * 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- * 問題用紙と解答用紙それぞれに受験番号、氏名を記入してください。
- * 必要に応じて問題用紙の余白や裏面にメモをとることは構いません。
- * 試験終了までは原則として退場を認めません。

受験番号	氏 名

〔問題〕以下の〔会話Ⅰ〕・〔会話Ⅱ〕では、三人の学生（平塚君、藤沢君、二宮君）が、「モラルエンハンスメント」について話し合っている。「モラルエンハンスメント」とは、「生物学的・生化学的手法を用いて人間の道徳性を高めること」である。これをよく読んで後の問1～問4に答えよ。

会話Ⅰ

- 二宮 モラルエンハンスメントとは何かという話から始めよう。「生物学的・生化学的手法を用いて人間の道徳性を高めること」のうち、「人間の道徳性を高めること」については後で話すとして、「生物学的・生化学的手法」とは、具体的にどういうことだろう。
- 平塚 気になって少し調べてみた。「生物学的・生化学的手法」として、主に考えられているのは脳への介入だ。手術、薬物投与のほか、電気刺激や遺伝子の改変などによって脳の状態を操作することを指すようだ。
- 藤沢 「人に暴力をふるってはならない」のような道徳的判断が、脳の働きと関連していることは間違いないと思う。だから、いま平塚君が言ったような手法で脳に介入すれば、道徳的判断を変えることができるのではないか、という気はする。しかし、それがどの程度可能なのか私たちが評価するのは難しい。
- 二宮 たしかに、私たちは生理学や脳科学の専門家ではないから、モラルエンハンスメントを用いて何ができるのか判断するのは困難だ。この場では、そうした手法を用いて「人間の道徳性を高めること」が望ましいか否かを中心に議論したい。
- 平塚 それに異論はないけど、この場合の「高める」というのは、本人が教育や訓練を受けて努力を重ねることではなくて、もっぱら外部からの技術的な介入によって実現するということに注意したい。
- 藤沢 では、いま平塚君が言ったことも踏まえて考えてみよう。「道徳性」を、さしあたり「規範を守る能力」だと考えると、それを「高める」ことの目的は何だろうか。
- 二宮 社会の秩序を保つことだ。法律やもっと細かなルールに従って行動することができない人が多くなると、治安は悪くなるし、トラブルも増える。そうした人々の道徳性を高めればもっと暮らしやすい社会になる。
- 藤沢 それは教育の役目だと思うが。
- 二宮 本当はそうだ。しかし、残念ながら教育だけで人間が完全に道徳的になるとは思えない。たとえば、私たちは「すべての人を平等に、公正に扱うべきだ」と考えるが、実際に行動するときにはどうしても親しい人や自分に近い人の利益を優先し、なじみのない人や見知らぬ人をないがしろにしまいがちだ。これは、どれほど優れた教育を受けた人でも克服することが難しい性質だと思う。「生物学的・生化学的手法」みたいに脳に介入することができれば、そのような性質すら変えられるかもしれない。
- 平塚 二宮君はモラルエンハンスメントにかなり肯定的なように見える。具体的にどうすべきだと考えているか教えてほしい。

- 二宮 できればすべての人、最低でも一部の人、たとえば犯罪を繰り返す人などがモラルエンハンスメントを受けるよう制度化したらいいと思う。
- 平塚 それは過激すぎる。そのような強制的なやり方は実際には難しい。
- 二宮 私も実際には難しいと思う。あくまで「アイディアとして受け入れられるか」という点から考えてみたい。
- 平塚 私はアイディアとしても受け入れられない。というのも、モラルエンハンスメントを制度化するということは、人間の性格を道徳的に望ましいものに改造してしまうということだ。しかし、道徳的に望ましい性格について、私たちの見解が一致するとは考えられない。理想的な性格を、誰が何の資格で決めるのか？
- 二宮 特定の権力者のような人が勝手に決めてしまったら困るが、道徳性に関しては人々の間である程度の合意形成が可能だと思う。たとえば、暴力を避けること、他人を尊重することに異論がある人はいない。そういう基本的な道徳的価値観に基づいたモラルエンハンスメントの制度化は検討するべきだ。
- 藤沢 私は別の点から反対する。道徳性というのは、実際の人間関係や人生経験の中で培われるものだと思う。その過程を省略してしまったら、真の道徳的向上は望めない。

会話Ⅱ

- 藤沢 「エンハンスメント」という語には、一般的には「強化」や「増大」という意味があつて、狭い意味では「技術的、医療的介入による能力や性質の向上」を指すようだ。
- 平塚 モラルエンハンスメントも、この狭い意味でのエンハンスメントの一種ということになる。ただ、身体能力や認知能力を向上させる場合、その基準ははっきりしているのに対して、「道徳性」の向上という場合、どういう状態になればそれが達成されたといえるのか明らかではない。
- 二宮 身体能力や認知能力を向上させた場合、競争上有利に働くことは明らかなので、恩恵を受けるのは主に本人だ。その点でも ¹モラルエンハンスメントとは異なる。
- 平塚 いや、モラルエンハンスメントによって本人が恩恵を受けることも考えられる。たとえば、自分の暴力的な性格に悩んでいる人がモラルエンハンスメントによって穏やかな性格に変わるといったケースを考えてみよう。これは、さっき ²二宮君が支持した制度化とは違って、本人が自分の意志で受けるものだ。私は、強制ではなく自分の意志で自分の道徳性を改善することは否定すべきではないと思う。その限りで、個人レベルでのモラルエンハンスメントは認めるべきだと考える。
- 二宮 しかし、その場合は道徳性の向上というより、単に「自分のなりたい性格になる」というだけになってしまう。
- 藤沢 ³私は強制を伴う制度化であろうと、個人の意志による自発的なものでであろうと、モラルエンハンスメントには反対だ。
- 平塚 時間が来たようだ。三人に意見は一致しなかったが、有意義な議論だった。

- 問1 傍線部1「モラルエンハンスメントは異なる」とあるが、二宮君は「身体能力や認知能力を向上させる」エンハンスメントとモラルエンハンスメントがどのような点で「異なる」と考えているか。【会話Ⅰ】・【会話Ⅱ】をよく読み、二宮君の発言を踏まえて答えよ。
- 問2 傍線部2「二宮君が支持した制度化」とあるが、これはどのような考え方か。また、平塚君はそれに対してどのような立場をとっているか。【会話Ⅰ】・【会話Ⅱ】をよく読み、二宮君と平塚君の発言を踏まえて答えよ。
- 問3 傍線部3「私は強制を伴う制度化であろうと、個人の意志による自発的なものでであろうと、モラルエンハンスメントには反対だ」とあるが、藤沢君がそのような立場をとるのはなぜだと考えられるか。【会話Ⅰ】・【会話Ⅱ】をよく読み、藤沢君の発言を踏まえて答えよ。
- 問4 モラルエンハンスメントについてどう考えるか。【会話Ⅰ】・【会話Ⅱ】を踏まえ、自身の考えを300～350字で述べよ。その際、「モラルエンハンスメントの制度化」「個人の意志による自発的なモラルエンハンスメント」のそれぞれについて、自身の立場を明らかにすること。また、自身で考えた具体例を必ず示すこと。